

【1 学年】

担当【遠山 久也】

1 学校経営計画を踏まえた学年の現状と課題

入学1年目ということで、高校生活を始めるにあたり、以下のことが課題となる。

- ・生徒が自ら学び自ら考える力を養い、学力向上を図る。
- ・規範意識を培い、自主・自律の力を育てる。
- ・心身ともに健康で調和のとれた人間を育成する。
- ・互いの人格を尊重し、豊かな人間関係を築く力を育てる。
- ・望ましい職業観や勤労観を育む。

2 学年の目標

- 1 自学自習及び読書活動の推進を通して豊かな教養と幅広い視野を育む。
- 2 生徒の発達段階に応じたきめ細かなキャリア教育を推進し、生徒の進路実現を図る。
- 3 田園調布高校の生徒としての帰属意識を醸成し、生活規律の向上を図る。
- 4 生徒の主体性、計画性、他者と豊かに関わるコミュニケーション能力を育てる。
- 5 アドバンストクラスにおいて授業リーダーを育成し、学校全体の学力向上につなげる。

3 目標を達成 する上での 具体的な方策

- 1 「人間と社会」の科目を通じて集団づくりを組織的に推進する。
- 2 ホームルーム活動において、他者と豊かに関わるコミュニケーション能力を育てる。
- 3 学校行事を通じて、自主・自律の力を育み、生活習慣を確立させる。
- 4 学校行事、部活動等を通じて、体力の維持向上、心身の健康の保持増進に努める。
- 5 分掌・教科との連携・協力を積極的に行う。

4 今年度の 取組

- 1 考査や学力テストの結果を学習改善に生かす。
- 2 スタディキャンプを通して学習方法の確立を図る。
- 3 夏季集中型学力向上講習を通して学習方法の確立を図る。

5 期待できる成果

- 1 進路希望の実現に向けた学習習慣の確立と学力の向上。
- 2 体力の維持向上と心身の健康の保持増進。
- 3 他者を思いやり社会に貢献する心の育成。

【2 学年】

担当【鈴木 誠士】

1 学校経営計画を踏まえた学年の現状と課題

現状

働き方改革を推進し、教職員がライフ・ワーク・バランスを意識して、生き生きと職務を遂行できる学年を目指し、限られた時間の中での学習指導の充実を図り学力向上を推進する。

課題

生徒一人一人の個性を大切に、積極的にコミュニケーションをとり、生徒の考え方、物の見方を理解し、進路実現に向け取り組んでいく必要がある。

2 学年の目標

- 1 授業準備、チャイム着席の徹底。
- 2 生徒の進路希望実現に向け、計画的に進路指導を進める。
- 3 次期学習指導要領に基づく学力観の転換。
- 4 夏季集中型学力向上講習から学習方法の確立。
- 5 進学指導研究校として国公立大、難関私立大合格の実績を作る。

3 目標を達成 する上での 具体的な方策

- 1 授業前に教室、活動場所に行き、事前の声かけをしていく。
- 2 進路指導部を中心として全教員で計画的に行う。
- 3 勉強会、学年会を通して学年教員間で共通理解を図る。
- 4 生徒の主体的な学習姿勢を育み、学校全体の授業力を高める。
- 5 大学ガイダンスなどを実施して難関に挑む意欲を高める。

4 今年度の 取組

- 1 学年集会やホームルームにおいて規範意識を培う。
- 2 各教員の指導力向上に向け学ぶ意欲を高める。
- 3 学年が共通理解し、同じ意識で取り組めるような雰囲気を作る。

5 期待できる成果

- 1 授業に対しての取り組む姿勢が変わる。
- 2 高いレベルの授業が提供できるようになる。
- 3 同じ方向性を持ち、指導の一貫性につながる。

【3 学年】

担当【手塚 登】

1 学校経営計画を踏まえた学年の現状と課題

2年間の経験を踏まえて、学年担任団は最終学年生徒の進路保障のために、それぞれの個性を生かしながらも、団結して取り組むことができている。大学定員の厳格化や現行のセンター入試最終年という変動要因を考慮しながら、それぞれの生徒にふさわしい進路指導をしていくことが課題である。

2 学年の目標

- 1 「合格に向けた5か条」に基づき遅刻欠席を極力減らす。
- 2 それぞれの生徒に応じた進路を実現する。
- 3 基礎基本を大切に、その土台をもとに思考力・応用力を培う。
- 4 入試情報の共有を図り、それぞれの生徒の指導に生かす。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 ホームルーム・学年集会などで遅刻欠席の多さと学力の関係について注意喚起し、改まらない生徒は学年で指導する。
- 2 年2回の個人面談と夏季休業中の三者面談で生徒保護者の意向を正確に把握し指導をする。
- 3 日々の授業を真剣に受けさせ、土曜講習・夏季講習等に積極的に参加させる。

4 今年度の取組

- 1 夏季講習・冬季講習に加えて、3学期も直前講習を実施する。
- 2 夏季休業中に三者面談を実施。

5 期待できる成果

- 1 進路に対する現実的な意識を持つとともに、第1志望を簡単にあきらめない意識が持てる。
- 2 日々の授業の積み重ねが、学力向上につながることを自覚できる。

【教務部】

担当 【遠藤 浩司】

1 学校経営計画を踏まえた分掌の現状と課題

現状

教育課程の適正な進行管理を行っている。

課題

- (1) 69期入学生から導入された教育課程の完成年度の時間割作成。
- (2) 定型業務の作業環境の整備。
- (3) 後継人材の育成。

2 分掌の目標

- 1 年間行事予定を踏まえ、授業時数を確保する。
- 2 教科の評価・評定、学年の成績管理が適正に行われるよう連携する。
- 3 現教育課程の時間割を完成させる。
- 4 個々の業務を円滑かつ効率的に行う。
- 5 後継人材を育成する。

3 目標を達成 する上での 具体的な方策

- 1 年間行事計画に基づき、授業時数の取りまとめを教科に周知する。
- 2 教育課程検討委員会、教科主任会・アドバンスト委員会と連携し、定期考査後の採点・成績についての適正な処理方法を明記した手引書を作成する。
- 3 教育課程検討委員会、教科主任会・アドバンスト委員会と連携し、編成された次期学習指導要領に基づいた新教育課程の進行管理を行う。

4 今年度の 取組

- 1 年間行事計画に基づいた授業時数総括表の作成。
- 2 年間を通じて個々の業務を時系列で整理し、内容と目標を明確化する。
- 3 個々の業務の相互点検。

5 期待できる成果

- 1 適正な授業時数確保。
- 2 個々の業務にかかる時間の短縮と労力の軽減。
- 3 教務に係る業務全般の共通理解。

【生活指導部】

担当【荻原 秀明】

1 学校経営計画を踏まえた分掌の現状と課題

現状

田園調布高校の生徒としての帰属意識は高く、生活規律の向上を図る集団づくりを組織的に推進する体制にある。学校行事を通し、ホームルーム活動、生徒会活動は活性化されている。部活動加入率は、学年で差が生じている。

課題

「伝統」の確認作業が必要である。生活規律の定着には、定期的に指導助言が必要である。学校行事は、学校全体の取り組みとして組織的に行う。生徒会活動は、発想力豊かな活動の促進が必要である。部活動の活動は質の向上が必要である。

2 分掌の目標

- 1 生活規律の確立。
- 2 責任感、協調性、コミュニケーション能力、思いやりの心を身に付けた生徒の育成。
- 3 規範意識と望ましい生活習慣の確立。
- 4 部活動や学校行事を通して、協力し互いに高め合う姿勢や態度を育成。
- 5 全教育活動を通して、道德教育、安全教育の充実に取り組む。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 挨拶励行、時間厳守に向けた指導、身だしなみや頭髮指導を組織的に行う。
- 2 「SNS東京ルール」に基づき、情報リテラシー、情報モラルを育成する。
- 3 道德的価値を自覚させ、他者を思いやる心や規範意識の向上を図る。
- 4 リーダーとしての人材の育成を組織的に図る。

4 今年度の取組

- 1 生活規律の確立。(挨拶励行、チャイム着席、身だしなみ指導、頭髮指導、遅刻指導)
- 2 リーダーの育成。(体育祭・文化祭・合唱祭・生徒会執行部・各種委員会・部活動)
- 3 情報リテラシー、情報モラルを育成し、安全で穏やかな生活環境の確立。

5 期待できる成果

- 1 誠実・敬愛・自主・自律の精神に基づき、良識ある行動がとれる人物の育成。
- 2 「磨かれて成長するもの」であることを信じて疑わない、リーダーの育成。
- 3 互いの人格を尊重し、個々の精神の健全な発達。

【進路指導部】

担当【駒場 晃】

1 学校経営計画を踏まえた分掌の現状と課題

進路指導を行う上のタイムテーブルを学年ごとに見える化したことで、進路指導に対する取り組みが計画的・組織的になり、きめ細やかな指導ができるようになっていく。しかし、首都圏私大定員厳格化や高大接続改革の影響により、厳しい状況が続くことから、「田高進路プロジェクト」のより一層の充実を図り、進路に係る数値目標達成に向け、進路指導部・学年・教科が一体となった進路指導を計画的に行う必要がある。したがって、進路指導に必要なデータの共有・活用を図り、国公立大学、難関私立大学をはじめとする、生徒の進路希望実現に向けた指導を、進路指導部を中心として、全教員で行っていく。

2 分掌の目標

- 1 進路に関する生徒への情報提供を、速やかに、的確に行う。
- 2 最新の進路情報を全職員で共有する。
- 3 進路指導部と担任団と連携を強化する。
- 4 年間を通して、確実な作業を心掛ける。
- 5 保護者の皆さまにも、情報提供を積極的に行う。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 掲示板を利用した掲示物での情報提供や学年集会等での講話を積極的に行う。
- 2 職員会議等で還元研修を行う。
- 3 必要に応じて学年会や打ち合わせ等に参加して、連携を密にする。
- 4 チェック体制を複数にして、確実な作業を心掛ける。
- 5 保護者会等に積極的に参加し、保護者・生徒・教員が三位一体となった指導を確立する。

4 今年度の取組

- 1 昨年同様、「進路指導部より」の掲示を行う。
- 2 3年生に対する「大学別入試対策講座」を行う。
- 3 進路行事では入選、企画などで一切妥協しない行事づくりを行う。

5 期待できる成果

- 1 最新かつ重要な進路情報に触れることで進路実現に向けたモチベーションが高まる。
- 2 各大学の入試問題の特徴を深く知ること、合格力アップにつながる。
- 3 安易な進路選びの雰囲気を作らせない。

【総務部】

担当【吉田 宣浩】

1 学校経営計画を踏まえた分掌の現状と課題

総務部は、様々な細かい業務をこなしながら、一番の仕事は募集対策業務であるので、そこに注力しつつ、入学式や始業式などの式典、芸術鑑賞教室、文書関係(学校要覧、新入生のしおり、校務の手引き、さきはへよ(本校の学校だより)、職員・委員会等の名簿、新入生アンケート、などの作成)、防災活動(避難訓練、宿泊防災訓練など)、図書館指導、集合写真、机・椅子の管理、奨学金関係、学校運営連絡協議会関係、PTAや月日会(本校の同窓会)との渉外、などと多岐にわたる業務の遂行に努める。

なお、募集対策関係は募集対策委員会の欄に、防災関係は防災教育推進委員会に譲る。

2 分掌の目標

- 1 各種行事の確実な遂行。(入学式、始業式、終業式、修了式、芸術鑑賞教室など)
- 2 各種文書の確実な作成・配布(回収・集計)。(新入生アンケート、職員・委員会等の名簿、さきはへよ、学校要覧、校務の手引きなど)
- 3 生徒の学校生活へのフォロー。(机・椅子の管理、奨学金に関する業務、集合写真など)
- 4 渉外関係のスムーズな遂行。(学校運営連絡協議会、PTA、月日会、清流会など)

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 各種行事の遂行において、総務部内における連携を密にして、確実な遂行を目指す。
- 2 各種文書の作成・配布において、総務部内における連携を密にして、確実な遂行を目指す。
- 3 生徒の学校生活における種々の機会において、総務部内における連携を密にして、生徒の学校生活に支障が出ないよう業務を遂行する。
- 4 渉外関係において、総務部内における連携を密にして、確実な遂行を目指す。

4 今年度の取組

- 1 上記の各取組について、常に早めの行動を意識して、余裕を持って着実に業務を遂行している。

5 期待できる成果

- 1 総務部内の細かな業務を着実にこなしていくことで、学校全体の業務が滞りなく遂行することにつながる。

【経営企画室】

担当【梶 恵美子】

1 学校経営計画を踏まえた分掌の現状と課題

学校に寄せられる様々な声を正しく聴き、この声に正しく応えていく必要がある。

2 分掌の目標

- 1 行政的視点を持って、学校経営に参画する。
- 2 学校の広報、広聴の相談窓口として、的確な案内をする。
- 3 入学選抜、授業料、証明書発行、学校徴収金等について適正に処理する。
- 4 施設・設備の維持管理と安全かつ快適な学習環境の維持・整備に努める。
- 5 地域とのコミュニケーションを築き、パートナーシップを深める。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 企画調整会議に出席し、行政的視点から積極的に意見を述べる。予算計画及び執行管理、決算事務等について、確実に処理する。
- 2 都民サービスの視点に立った電話対応や接遇をする。苦情・相談等に適切に対応できるよう、広聴の際のマナーや基本的な対応姿勢について、経営企画室内で共通理解した上で業務を行う。
- 3 正確な入選業務、授業料事務、適正な証明書発行、私費の適正管理等、教員と連携して取り組む。また、個人情報管理を徹底する。
- 4 施設・設備のあり方や予算執行等について計画し、提言する。施設の設備点検を日常的に行い、劣化・破損・故障箇所があった場合、速やかに対応する。
- 5 学校開放・公開講座を運営する。学校運営連絡協議会の場や地域の方々との日々の関わりを通して、来校者や地域の声を収集する。

4 今年度の取組

- 1 企画調整会議で、事務の効率化を図った改善案を提案する。学校経営計画に基づき、予算調整会議を中心に計画的かつ効率的な予算編成をする。また、四半期ごとの執行管理を行い、補正により予算を有効活用する。
- 2 学校案内の印刷等、契約学校をPRするための取組について、企画段階から関与し、費用対効果の観点及び、内容のわかりやすさ等、都民目線で提言を行い、実現に向けた取組を行う。
- 3 校内手続きを円滑に進めるためのマニュアル等の整備や、教員との役割分担を明確にし、業務の透明化を図ることで、事故が起きない仕組みを作る。事務処理を行う際は、根拠や規則等に基づき、時期を逸することなく適切に対応する。

5 期待できる成果

- 1 自律経営推進予算の適正な執行により、校長の学校経営を支えることができる。
- 2 教職員との連携に努め、情報の共有化を図ることで、担当が不在時でも対応できる。
- 3 事務を改善し、より一層、効率化を図ることで、働き方改革を推進し、教職員がライフ・ワーク・バランスよく職務を遂行できる。

【安全衛生委員会】

担当【梶 恵美子】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

働き方改革を推進し、教職員がライフ・ワーク・バランスよく、生き生きと職務を遂行する学校となるよう、より一層健康管理や労働災害を防止する手段をとる必要がある。

2 委員会の 目標

- 1 年4回開催し、活発な議論を交わす。
- 2 労働災害防止に努める活動や職員の健康管理、健康の保持増進のための活動を実施する。
- 3 職場における安全と衛生の水準の向上を図り、職場環境を快適な状態に維持管理する。

3 目標を達成 する上での 具体的な方策

- 1 年4回開催し、あらゆる立場の関係者、職員から意見等を聞く。
- 2 健康診断を受けるよう職員に周知徹底する。教職員の健康状態等について産業医と情報を共有し、必要に応じて産業医の面接指導を実施する。
- 3 産業医や環境衛生管理技術者から職場環境についてアドバイスをいただく。

4 今年度の 取組

- 1 議題をあらかじめ委員に周知し、教職員の安全衛生について広く話し合う。
- 2 健康診断の実施について、早期に周知し、健康診断の重要性を伝え受診を促進する。巡回健診後は、未受診者に対して、他校や人間ドック等の情報を提供する。定期健康診断を受けた者で、要観察・要医療となった職員、また、在校時間の長い職員に対し、産業医と面談の場を設ける。
- 3 職場巡視等で産業医から指導・助言をいただく。また、環境衛生管理技術者による空気検査を実施し、結果を教職員に周知する。

5 期待できる成果

- 1 あらゆる立場の関係者、職員から意見等を収集し、反映していくことで、職員の健康の保持及び増進、快適な職場環境を実現できる。
- 2 教職員一人一人が自己の健康状態を把握し、疾病や異常の早期発見に努めることができるようになり、脳・心臓疾患、メンタルヘルス不全等の健康障害のリスクを減らすことが期待できる。
- 3 専門家からの助言や検査等を実施することで客観的に判定ができ、職場環境改善に向けて取り組むことができる。

【業者選定委員会】

担当【梶 恵美子】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

開催時期について、真に必要な時期に委員会を開催する必要がある。
また、修学旅行等の契約について、細かい点まで確認して契約書を取り交わす必要がある。

2 委員会の 目標

- 1 必要な時期に随時開催する。
- 2 厳正かつ公平に業者を選定する。
- 3 適正な内容で契約を取り交わす。

3 目標を達成 する上での 具体的な方策

- 1 開催時期について、過去の実績を参考に学年の担当等と相談しながら決める。
- 2 東京都の基準に基づき、厳正かつ公平に業者を選定する。
- 3 教員と経営企画室職員とで必要な情報を共有し、契約内容を十分確認した上で契約を取り交わす。

4 今年度の 取組

- 1 学年の担当等と相談し、適切な時期に各旅行等の業者選定委員会を開催する。
- 2 広く業者が参入できる機会を提供し、規程に基づき、厳正かつ公平に業者を選定する。
- 3 過去の実績等を踏まえ、またホームページ等で最新の情報を収集しながら教員と経営企画室職員とで必要な情報を共有し、適正な内容で契約を取り交わす。

5 期待できる成果

- 1 適切な時期に委員会を開催することで、旅行日程等、学校の希望が通りやすく、計画どおり進めることができる。
- 2 安心して修学旅行等を任せられる業者を選定できる。また、安価であれば、保護者の負担軽減を図ることも期待できる。
- 3 入念に下調べをしておくことで、計画どおり安全に修学旅行等を実施できる。

【施設委員会】

担当【梶 恵美子】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

施設・設備が老朽化しており、造改修、修繕が必要な箇所が多い。

2 委員会の 目標

- 1 6月中旬に開催する。また、会議時間の短縮を図る。
- 2 造改修、修繕が必要と思われる箇所について、現状を確認する。
- 3 危険防止、保健衛生上等の観点で優先順位等を検討する。

3 目標を達成 する上での 具体的な方策

- 1 日程を調整し、事前に資料を配布する。
- 2 継続案件は、昨年度のセンターとのヒアリングの状況を確認する。
- 3 危険防止、保健衛生上等を考慮し、真に対応が必要な案件を抽出し、優先順位等を検討する。

4 今年度の 取組

- 1 6月中旬に開催し、事前に資料を配布し、説明時間を短縮する。
- 2 継続案件は、昨年度の状況を確認しつつ、現状についても確認する。新規案件は担当から詳細をヒアリングし、施設の現状を確認する。
- 3 継続案件も新規案件も緊急対応、危険度、保健衛生上、法令上等の必要性を考慮し、また、他の代替対応も検討した上で、優先順位付けをする。

5 期待できる成果

- 1 事前に資料を配布することで、資料の説明を一部省略でき、会議時間の短縮を図れる。
- 2 継続案件と新規案件の現状を把握し、情報を共有することで、新規案件の順位がどのあたりになるのか見当がつけやすくなる。
- 3 真に改修等が必要な案件が、緊急度、危険度、保健衛生上、法令上の必要性等を考慮した上で順位づけられる。

【防災教育推進委員会】

担当【吉田 宣浩】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

本校が「目指す学校」として、いくつか掲げている要件の中に「防災・安全教育を推進し、地域と連携した社会貢献のできる学校」がある。さらに、生活指導の方策の一つに「学校安全計画の全体計画に基づき、『地震と安全』『防災ノート』『3.11を忘れない』の活用等を通して、避難訓練、防災訓練、安全講話、宿泊防災訓練等を計画的に実施し、危険を予測し回避する能力や他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。宿泊防災訓練では、自助、共助の大切さや奉仕の精神を体得させるため、地域社会と連携し、地域に貢献する活動を取り入れて実施する」とある。

この委員会の構成員が学校運営連絡協議会（以下、学運協）と連動しているため、会合は常に学運協と組み合わせて開催されており、機能的に開催されているとはいえない。さらに、独自に開催するとなると、その連絡から始まり、会の運営、報告など招集する側にもされる側にも大きな負担が生じることになる。よって、現状では学運協との同時開催で、内容を確認してもらう形が無難である。

2 委員会の目標

- 1 学運協と組み合わせて年2回開催。
- 2 避難訓練、防災訓練、宿泊防災訓練など防災教育について協議する。
- 3 主要な構成員である消防署担当者、自治会長、消防団長、大田区職員と連絡を重ね、宿泊防災訓練などの機会を捉えて防災教育の推進を図る。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 委員会の開催にあたっては、通知など連絡を密にする。
- 2 特に宿泊防災訓練に関しては、実際に担当者が行き来をして実施についての連絡・確認を重ねる。
- 3 協力して生徒に分かりやすい葉を、教員にも詳細なマニュアルを作成して行事のスムーズな進行を図る。

4 今年度の取組

- 1 総務部による宿泊防災訓練の実施。
- 2 総務部による避難訓練及び防災訓練（シェイクアウト訓練など）の実施。
- 3 各種活動の反省と次年度に向けての検討。

5 期待できる成果

- 1 宿泊防災訓練を通じて、スマートフォンもなく情報不足の中、互いに考え、話し合い、自助・共助の精神を養う。
- 2 避難訓練を通じて、非常時への警戒を怠らない心がけをしておく。
- 3 総務部は例年、担当者の交代が頻繁なので、引き継ぎを確実に行う。

【募集対策委員会】

担当【吉田 宣浩】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

本校が「目指す学校」として、「学習活動の充実・学力向上を図る学校」「教育活動の特色化を推進する学校」がある。その上で、取組目標と方策では「6. 募集・広報活動」の項目において「本校の教育実践を広く都民及び受験生に発信」することになっている。募集対策担当として、本校の魅力を紹介し、第1志望として受検してくれる生徒を増やし、入学してからも積極的に学校生活を送る生徒に育てることが肝要である。

新入生アンケートでは、77%が第一志望、と答えているので、さらに「田園調布に來たかった」という生徒を増やすべく、情報発信をしていく。

2 委員会の目標

- 1 開催は年3回程度を目標に、委員会からひいては教員全体の意識向上を狙う。
- 2 総務部が主体となり、見学会・説明会を中心に広報・募集対策活動を展開する。
- 3 結果として、入試倍率を前年並みに確保することを目標とする。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 委員会でまず危機意識を共有し、さらに職員全体に広め、積極的な広報活動参加に結びつける。
- 2 計画に沿って来校者に迷惑懸けることなく体験授業・見学会・説明会を遂行する。
- 3 2に加え、塾や中学校、業者説明会など、外部への働き方もさらに強める。

4 今年度の取組

- 1 広報活動を紹介(写真、便り、など)しながら、職員全体の意識共有に努める。
- 2 昨年よりも定員を増やし、内容も来校者のためになる情報(PP資料など)を提供する。
- 3 既に塾訪問は10校を越え、情報収集している。新しく塾向けの説明会を開催する。

5 期待できる成果

- 1 受験倍率が推薦で3倍前後、前期・後期とも2倍前後の確保を期待する。
- 2 上記の取組により、本校の教育実践を広く知らしめることができると思う。

【教科主任会・アドバンスト委員会】

担当【遠藤 浩司】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

現状

学校経営計画にある「(1) 学習指導の充実を図り、生徒が自ら学び自ら考える力を育成し、学力向上を図る学校」を実現するために、各教科主任が学校全体の教育活動を俯瞰的にとらえ、より円滑で効率的・効果的な教科指導を目指し協議を行っている。

課題

次期学習指導要領に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う。

2 委員会の目標

- 1 月に1～2回開催する。
- 2 各教科が、「学力の三要素」(①知識・技能の確実な習得、(①を基にした)②思考力、判断力、表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)及び「探究力」を育成する授業を実践するための指導方針を策定する。
- 3 全教科が、生徒の主体的な学習を促すための教材開発及び指導計画を協議する。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 予め定めた年間計画に基づいて開催する。
- 2 各教科がグランドデザインに基づいた「目指す生徒像」の実現に向けた指導計画を立てるために、次期学習指導要領に係る説明会・研修会等で収集した教科指導に係る情報を共有する。
- 3 カリキュラム・マネジメントに基づき、教科の目標設定を明確にし、基礎・基本の着実な定着を図るために教科横断的な視点で教育内容等を組み立てる。

4 今年度の取組

- 1 教育課程検討委員会と協調し、グランド・デザインを完成させる。
- 2 平成30年度入学生(69期)から改訂された教育課程が来年度に完成するにあたり、選択科目について必要な情報を生徒に周知し、講座展開をシミュレーションする。
- 3 夏季集中型学力向上講習および夏季休業期間中の講習の運営を行う。

5 期待できる成果

- 1 カリキュラム・マネジメントに基づき、各教科が適切なルーブリックを策定する。
- 2 時間割作成のために必要となる、教科に係る情報を集約できる。
- 3 学校全体の学力向上、進学実績の向上につながる。

【教育課程検討委員会】

担当 【遠藤 浩司】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

現状

学校経営計画にある「(1) 学習指導の充実を図り、生徒が自ら学び自ら考える力を育成し、学力向上を図る学校」を実現するために、教科主任会・アドバンス委員会と協調し、学校全体の教育課程の進行・管理を行っている。

課題

生徒が自ら課題に向き合い、主体的に関わり合うことで、よりよい社会と幸福な人生の創り手になれるよう、次期学習指導要領の理念に基づいた教育課程の編成・実施・管理を行う。

2 委員会の 目標

- 1 月に1～2回開催する。
- 2 次期学習指導要領に基づき、学校経営計画にある「目指す学校」を踏まえ、グランド・デザインを策定する。
- 3 教育課程全体を俯瞰的に捉え、教科横断的な視点でその実施状況を評価して改善を図る。

3 目標を達成 する上での 具体的な方策

- 1 予め定めた年間計画に基づいて開催する。
- 2 教科主任会・アドバンス委員会と協調し、アクティブ・ラーニング型授業を導入・推進し、「学力の3要素」、「探究力」の育成を目指す教育活動の方針を策定する。
- 3 カリキュラム・マネジメントを継続的に行う。

4 今年度の 取組

- 1 グランド・デザインの策定。
- 2 各教科のルーブリックの整合性の調整。
- 3 観点別学習状況評価の検討。

5 期待できる成果

- 1 次期学習指導要領に基づく教育課程編成の指標となる。
次期学習指導要領の教科指導の理念である6つの視点（①何ができるようになるか、②何を学ぶか、③どのように学ぶか、④生徒一人一人の発達をどのように支援するか、⑤何が身についたか、⑥実施するために何が必要か）が明確化し、教育活動の質の向上が期待できる。
- 2 生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようになる。

【情報委員会】

担当【安達 里香】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

本校の学校経営計画では、アクティブ・ラーニング型授業を推進するなどを実施し、学ぶ楽しさ、わかる・できる喜びを実感できる授業、言語能力、知識・技能、思考力・判断力・表現力が身に付く授業を実践することを目標のひとつとして掲げている。その計画推進の一環として、現在生徒会をはじめとする生徒主体の情報機器活用が行われているほか、授業でも日常的・計画的に積極活用している。本委員会は情報教育活動全般に関することを中心に運営しており、情報機器メンテナンスや操作法、トラブル回避等には日常的に対応している。また、ホームページで学校の特色を積極的に発信し、高い更新頻度で本校の特色ある教育活動の様子を広く都民及び中学生に発信している。

現在の課題は、機器の故障等の対応を迅速に行うことであるが、これを解決していくことでよりよい支援ができる。

2 委員会の目標

- 1 日常的な対応を主とし、会議は年に1回程度予算編成の時期に開催する。
- 2 TAIMS・ICTその他校内情報機器に関する保守管理を円滑に行う。
- 3 情報処理方法の指導助言を行うとともに本校ホームページの維持管理をする。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 各自情報教育を支援する力を向上させて対応に当たり次年度への方策を立てる。
- 2 ICTリーダーを中心に校内の情報機器に関する状況を詳しく把握し、対応する。
- 3 各所属分掌内での指導助言と委員会内での交流を深め、問題を共有する。

4 今年度の取組

- 1 TAIMS環境の変更に伴う校内での移行業務を支援する。
- 2 ICT機器の更新に伴う手続きを行う。
- 3 保守点検に関するスケジュールを随時確認し、全教職員に提示する。

5 期待できる成果

- 1 TAIMS環境の円滑な運用。
- 2 ICT機器の円滑な授業への活用。
- 3 TAIMS保守点検の時期を周知することで業務的・心理的負担を防止することができる。

【選考委員会】

担当【遠藤 浩司】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

現状

「東京都立高等学校の入学者の選抜方法に関する規則（平成5年度東京都教育委員会規則第1号）」及び当該年度の東京都立高等学校入学選抜実施要綱に基づき、東京都立高等学校入学選抜実施要領の定めるところにより、厳正、適正に実施している。

課題

入学選抜に係るいかなる業務においても、作業環境の整備を行うこと。

2 委員会の目標

- 1 入学選抜に係る業務における、作業環境の整備。
- 2 入学選抜に係る業務の精度の向上と効率化。
- 3 次年度入学選抜に向けた人材育成。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 委員会及び教務部が、入学選抜に係る各業務を実施要項等で定義し、担当者の責任を明確化し、常に相互点検と確認を徹底する。
- 2 前年度入学選抜を総括し、修正点・改善点について委員会及び教務部で共通理解し、次年度に向けて明文化する。
- 3 各業務に主担当・副担当をあてるとともに、各業務を委員会及び教務部の複数の人員による点検・確認作業を行う。

4 今年度の取組

- 1 前年度実施要項の点検。
- 2 前年度入学選抜アンケートを集約し、改善意見を実施要項へ反映させる。
- 3 前年度入学選抜に係る業務を時系列で整理し、適切な人員配置を行う。

5 期待できる成果

- 1 事故につながる点検漏れ・確認漏れの根絶。
- 2 作業時間が短縮することによる入学選抜業務による疲労の低減。
- 3 入学選抜に係る定型業務を定めた手順書の完成。

【「人間と社会」・探究委員会】

担当【入山 美樹子】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

田園調布高校の生徒および社会の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的実践的態度を育てるとともに、人間としてのあり方生き方について自覚を深め、自己を生かす能力を養うことを目標とし、それを達成するための方策を検討していくが、特に探究活動については、今年度からの導入であり、これから、実施方法や具体的な計画の道筋を立てていく必要がある。

2 委員会の目標

- 1 学期に1回以上委員会を開催、簡潔な議事を遂行する。
- 2 生徒が自己の在り方を探究できる授業内容を検討する。
- 3 授業内容目的などが的確に全体に伝わるようにする。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 必要な議題は事前にまとめておき周知する。
- 2 委員会では、現状の報告と今後の検討を行い、共通理解を得る。
- 3 学年担任とチーム・ティーチングを組む副担任等担当者同士の連携を密にする。

4 今年度の取組

- 1 第1学年「人間と社会」のチーム・ティーチングとグループワークの活用。
- 2 地域に根差した選択体験活動へ主体的参加の呼びかけ。
- 3 教科書使用による探究活動の導入。

5 期待できる成果

- 1 意見が異なる生徒同士の話し合いによる選択・行動に関する資質・能力の育成。
- 2 社会の一員であることの自覚形成とよりよい社会を実現しようとする態度の育成。
- 3 自己の在り方・生き方を考えながらよりよく課題を発見し解決していく能力の形成。

【留学生選考委員会】

担当【石橋 康正】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

グローバル社会に対応できる能力の育成を図る。
国際理解教育に関わる活動を推進する。

2 委員会の 目標

- 1 募集案内の出願日程と必要な校内作業を検討し、最適な時期に開催する。
- 2 高校段階での留学の意義と目的を生徒に理解させる。
- 3 学年・英語科、生徒本人と保護者と連絡を密にし、円滑な運営を行う。

3 目標を達成 する上での 具体的な方策

- 1 生徒への留学案内の周知を適切な時期に行う。
- 2 選考委員・学年を含めて生徒及び保護者と面談を行い、個々の手続きを相互確認しながら進める。
- 3 時期や内容について理解し、連携を行う。

4 今年度の 取組

- 1 次世代リーダー育成道場の生徒への周知と手続き。
- 2 その他、国際理解に係る事業紹介。

5 期待できる成果

- 1 留学を経験した生徒が、様々な分野において活躍する高い意志を持ち、リーダーシップを発揮できる。
- 2 当該生徒が留学を経て、異文化理解・コミュニケーション能力を向上させることができることに加え、周囲の生徒との交流の中で、国際理解についての動機づけを与える存在となることが期待できる。

【オリンピック・パラリンピック委員会】

担当【荻原 秀明】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

現状

オリンピック・パラリンピックを通して、「共生社会」「他者を理解」ができる人材の育成が必要である。障害者や高齢者等、他者の理解を深める必要がある。環境では、「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」などが求められていることを通して、生活様式の多様な在り方を考えられるようにしどうする体制の構築が必要である。観戦ではあるが、パラリンピックの観戦を通じて、障害者スポーツの理解を深め、相互に支え合い、認め合える心をもつ人材の育成が急務である。

課題

生徒のパラリンピックにおける認識や理解度を調査し、教育に生かすことが課題である。

2 委員会の目標

- 1 自己を肯定し、自らの目標を持って、自らのベストを目指す意欲と態度を備えた人間を育成する。
- 2 スポーツに親しみ、知・徳・体の調和のとれた人間を育成する。
- 3 日本人としての自覚と誇りを持ち、自ら学び行動できる国際感覚を備えた人間を育成する。
- 4 多様性を尊重し、共生社会の実現や国際社会の平和と発展に貢献できる人間を育成する。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 全ての子供が大会に関わる環境を提供する。
- 2 講演会、体験や活動を通じて学ぶことを重視する。
- 3 計画的・継続的に教育を展開する。

4 今年度の取組

- 1 オリンピック・パラリンピックのボランティアや観戦を通じて大会に関わる準備を行う。
- 2 オリンピアンによる講演会の実施、パラリンピック種目の体験教室への参加促進により理解を深める。
- 3 体育の授業、部活動を通して強靱な身体を育む。

5 期待できる成果

- 1 オリンピック・パラリンピックに対する理解や造詣を持った人材の育成。
- 2 国際感覚を備えた人間の育成。
- 3 平和と発展に貢献できる人間の育成。

【学校保健委員会】

担当【荻原 秀明】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

現状

学年による差・個人差はあるが、スマートフォンやゲーム等に時間を費やす生徒が少なくない。理想的な睡眠時間がとれていない生徒も多く、学習への取り組みのみならず健康面でも心配な状況である(『生活実態調査』より)。

歯列・咬合・歯周疾患受診者が多い。

裸眼視力A(1.0以上)の生徒が少ない。

課題

教員研修の充実及び研修時間の確保。(救命講習、食物アレルギー、熱中症、部活動における事故防止等)

ごみの減量推進、分別の徹底。

運動能力・体力低下の防止。

美化・清掃活動の充実、トイレの衛生面向上 等

2 委員会の目標

- 1 年2回以上、教職員向け研修なども含めて開催し、学校保健活動について協議・推進する。
- 2 生涯を通じた健康の保持増進・体力向上への関心を高められるような健康教育を推進する。自主的・実践的な態度を育むため、保健委員会など生徒主体の活動を活性化させる。
- 3 学校医や外部機関等と連携し、校内外の学校保健体制を充実させる。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 生徒の健康推進のための協議を行い、学校安全対策・事故防止・感染症拡大防止等の体制づくりも併せてすすめる。水曜日に設定されている研修や放課後をうまく活用し、要領よくコンパクトに研修会を実施する。
- 2 時宜を得たプリント・掲示物等で教員・保護者・生徒に啓発活動を行う。ECOプロジェクト、文化祭の出展・発表など、生徒主体の活動となるよう支援する。
- 3 各講演会を充実させる。学校医や大田保健所と連携し、健康の保持増進・学校安全に関する体制づくりを行う。スクールカウンセラー・専門医・特別支援教育心理士・外部講師等も活用する。

4 今年度の取組

- 1 月に「食物アレルギー教員研修会」、12月に「学校保健委員会」を開催する。熱中症や落雷事故防止等、教職員向けの保健文書を随時発行・メール配信し、学校保健・学校安全に関する意識の向上を図る。毎週水曜日の朝打ち合わせで、生徒の心身に関する情報交換を行う。
- 2 保健だよりや家庭通知等で、個人・全体の健康状態を知らせる。体育や部活動等での取り組みを通し、運動・スポーツへの関心を高める。保健委員会文化祭出展「ポッチャ」でパラリンピック競技を推進する。使い捨てコンタクトレンズケース回収を通じ社会貢献活動・障害者理解を深めさせる。行事での美化活動を推進する。
- 3 「パワーアップハイスクール」や「専門医派遣事業」を活用し、『熱中症防止教室』『夏季合宿前健康教室』『セーフティ教室』『命の大切さ講演会』『健康管理セミナー』『メンタルトレーニング教室』『けが・スポーツ障害予防教室』『こころの健康教室』『思春期講座』などの講演会を実施する。

5 期待できる成果

- 1 専門家(医師)との意見交換・協議により、最新かつ正確な知識を得られる。生徒の健康面面向上のため様々な場面で取り組みを推進することにより、教職員自身の健康(ライフ・ワーク・バランス)に対する意識向上にもつながる。
- 2 健康診断の結果を生かすことでより身近にとらえ、保健的課題の把握・実践に活かすことができる。2020オリンピック・パラリンピックの機運を高めることができる。美化推進による快適な環境づくりにより、精神生活の充実・集中力の向上につながる。
- 3 都の各事業を活用することで、部活動推進・体力向上・けが防止・募集対策にも貢献できる。事故防止に向けた校内体制を確立できる。教員・カウンセラー・心理士・精神科医等、連携することで専門家によるバックアップシステムを構築できる。

【いじめ防止対策委員会・教育相談委員会】

担当【加瀬 あづみ】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

素直で周囲への思いやりがある生徒が多い。調和的・穏やかな雰囲気でありつつも、学校生活・家族関係等の悩みをもつ生徒も散見されるため、きめ細かな対応が今後必要である。

委員会以外では、朝の打ち合わせや、学年と生活指導部との会議等、機会をとらえて生徒の情報共有がなされている。

2 委員会の目標

- 1 より綿密な情報共有を行い、今後の具体的対応・方向について協議する。組織的な教育相談体制を充実させる。
- 2 いじめや不登校等の未然防止、改善及び解決を図る。(心のケア、発達障害等への適切な支援)
- 3 カウンセラーや外部専門家・関係機関と連携し、心身の健康問題の早期発見・早期対応を行う。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 必ず毎月開催。事前調査を行い、スクールカウンセラー出勤日で、できるだけ多くの委員が出席可能な時間に設定する。個人情報に配慮した形で生徒情報を集約・委員会で共有し、会議時間の短縮・効率化を図る。
- 2 こころの教室(メンタルヘルス・自殺予防)やセーフティ教室(情報リテラシー・情報モラル育成)等の開催。スクールカウンセラー全員面接(1学年)実施。水曜日に設定されている「研修日」を活用し、校内研修を行う。いじめや体罰に関するプリント配布等、生徒・保護者・教職員全体へ啓発していく。
- 3 精神科医派遣事業(年5回)や特別支援教育心理士巡回事業(昨年20時間⇒今年度40時間)の活用・連携を行う。

4 今年度の取組

- 1 委員会名の変更、月1回委員会開催、いじめ調査(毎学期)・体罰調査(年1回)及び集計後の個別対応、校内サーバーとメールを活用した情報管理・情報共有、保健だより・生活指導部だより・スクールカウンセラーだより・リーフレット類の配布・啓発 等
- 2 特別支援教育及び「個別的教育支援計画」についての校内研修を実施(6月19日)。学年集会においてカウンセラー挨拶・ガイダンス実施。「東京都コミュニケーションアシスト講座」の周知。
- 3 精神科医や特別支援教育心理士等による生徒・保護者面談を実施。面談結果を担任へフィードバックする。必要な生徒には心理検査・アウトリーチ等も実施。

5 期待できる成果

- 1 あらかじめ文面に起こすことで、他の教職員にも情報が理解しやすくなる。また、無駄を省き合理的な運営を行うことで、教職員のライフ・ワーク・バランスへの一助ともなる。
- 2 発達障害等による学習上・生活上の困難を抱える生徒が、円滑な学校生活を送ることができ、社会参加も促進することができる。
- 3 教員以外の専門家による助言や支援を受けることで、教育相談体制の充実、生徒・保護者の心理的安定、不登校の未然防止につながる。

【教科書選定委員会】

担当【山縣 睦美】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

- ・専門的な調査研究および適正な選定を確実にし、指定の時間帯に教科書選定の結果を報告するために、担当者から各教科へ迅速な連絡を行う必要がある。
- ・各教科が適切かつ確実に選定作業と関係提出文書の作成を行うために、作業の日程・内容・留意事項を明示した手順書の精度を上げる必要がある。

2 委員会の目標

- 1 教科書の専門的な調査研究及び適正な選定を行うため、教科書選定委員会を所定の回数開催する。
- 2 教科書の専門的な調査研究結果及び生徒の実態等を踏まえて、最も適切な教科書を選定する。
- 3 校長の責任と権限の下に、各教科間で円滑かつ効率的な選定体制を築く。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 教科書選定委員会設置時に、選定に至るまでの行程表と委員会開催の日程を決定する。
- 2 校長の責任と権限の下に教科書選定委員会を設置し、十分に協議する。
- 3 委員会における選定理由および関係提出文書の確認に至るまでの適切な日程作業を各教科に周知徹底する。

4 今年度の取組

- 1 今年度の関係提出文書の作成に関する注意点等の変更点を各教科に委員会前に周知徹底し、効率的に委員会を運営する。
- 2 選定作業に係る教育課程や「高等学校用教科書目録」等の諸情報を各教科へ適切に周知する。
- 3 昨年度までの選定作業に係る定型作業を精査し、作業の日程・内容・留意事項を明示した手順書の精度を上げる。

5 期待できる成果

- 1 複数の担当者による所定の点検作業の後に委員会を開催することにより、委員会での確認対象がより確かなものになり、所定の回数の開催を実現できる。
- 2 内容が正確中正であり、学習進度に即応している等の調査研究を十分にでき、生徒の実態等を踏まえた最も適切な教科書を選定できる。
- 3 各教科・委員会の担当者による各作業行程の点検・確認作業を明確化することで、確実な選定作業ができる。

【周年行事実行委員会】

担当【吉田 宣浩】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

目指す学校像には、「本校の伝統を踏まえ...教育活動の特色化を推進する学校」とある。本年、創立70周年を迎える本校としては、秋に開催予定の70周年記念式典及び関連する活動を通して、更なる発展を遂げるよう、生徒の教育活動をさらに推進する。

2 委員会の目標

- 1 令和元年11月18日に開催される70周年記念式典を無事に実施する。
- 2 70周年記念誌を作成、発行する。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 各方面と協力して、記念式典参加者の招待・確定を早めに行い、合わせて生徒への指導も行う。
- 2 原稿依頼・校正・提出・製本までの作業を滞りなく遂行する。

4 今年度の取組

- 1 生徒の指導は、本校の歩みや将来(例えば80周年に向けて、など)に向けての作文などを制作する。
- 2 10月には記念誌が完成するよう、業者との折衝など滞りなく遂行する。

5 期待できる成果

- 1 本校の伝統に触れることにより、母校愛を育み、日々の教育活動への前向きな関わりが期待できる。
- 2 1にも言えるが、記念誌という形になることで、生徒の自尊感情にも前向きな効果が期待できる。

【開放事業運営委員会】

担当【梶 恵美子】

1 学校経営計画を踏まえた委員会の現状と課題

学校の年間行事計画が決定してから施設開放日を決定するため、開放事業の年間計画を策定する時期が3月下旬となっている。

テニスコートの施設開放は、開放日数に対して登録団体が多く、1回も利用できない団体があった。

2 委員会の目標

- 1 3月に開催する。
- 2 次年度の計画等について活発な議論を交わす。
- 3 地域住民の学習・文化・スポーツ活動の振興に資するとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 施設開放日を調整し、できるだけ早く委員会を開催できるように日程を調整する。
- 2 校内職員はもとより、校外職員（PTAや利用団体の代表者等）から様々な意見を聴取する。
- 3 公開講座及び施設開放事業を計画し、事業内容をホームページ等で公表し、募集を行う。応募者の選定後、確実に事業が実施できるよう進行管理する。

4 今年度の取組

- 1 学校の年間行事計画決定後、学校の施設開放の担当者と打合せを行い、速やかに施設開放日案を作成し、委員会開催日時を調整する。
- 2 施設開放の回数等、改善事項等があれば、委員の意見等を踏まえ、次年度の計画に反映させる。
- 3 例年同様に事業を計画し、学校のホームページ等を活用して募集を行う。公開講座の受講者及び施設開放利用団体決定後は、速やかに受講（利用）案内を通知し、開放事業を実施する。

5 期待できる成果

- 1 速やかに施設開放日を設定することで、委員会開催時期を早めに設定することが可能となり、次年度の事業の広報や決定通知等を早めることができる。
- 2 施設開放の回数を増やすことができれば、より多くの登録団体が利用できるようになる。様々な意見を伺うことで、より利用しやすい改善案を次年度の計画に盛り込むことができる。
- 3 学校開放事業を通して都民の生涯学習の充実に貢献できる。実際に学校の施設を利用いただき、教職員と関わり合うことで、学校に対して親近感を持ってもらうことができる。事業を継続していくことで、より地域とのパートナーシップを深めることができる。

【国語】

担当【山代 水緒】

1 国語科の目標

「進学指導研究校」の取組、学力スタンダード事業等の実施を通して、生徒の学力向上を図る授業を意図的・計画的に推進している。

従来の「読むこと」「聞くこと」中心の授業だけでなく、アクティブ・ラーニング型授業を推進し、言語能力、知識・技能、思考力・判断力・表現力が身に付く授業を目標として実践している。

高大接続改革を踏まえ、読解力と記述力をさらに向上させることが現時点での課題である。

2 国語科の目標

- 1 落ち着いた雰囲気の中で、真摯に授業に向かう態度を養う。
- 2 各生徒の様子をよく観察し、様々な側面からの適切な評価を行う。
- 3 言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育む。
- 4 新傾向の大学入試問題に対応できる力を育成する。
- 5 様々な課題について、組織として取り組む。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 積極的な授業参加を促し、対話的で深い学びを実現できる雰囲気を作る。
- 2 テストだけでなく、作文、発表、暗唱など様々な機会を与え、努力の過程も評価する。
- 3 アクティブ・ラーニング型授業等で、自己の考えを表現する機会を増やす。
- 4 複数の教材の比較や、記述問題などに取り組む機会を増やす。
- 5 科内でよく連携を取り、情報交換をしながら業務を遂行する。

4 今年度の取組

- 1 基礎的な国語力を定着させるための学習指導を行う。
- 2 高度な読解力・記述力を養うための学習指導を行う。
- 3 土曜講習、夏季講習など進路実現のための補講を行う。

5 期待できる成果

- 1 生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質を理解し、適切に使うことができる。
- 2 他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 3 大学入試に対応できる実力を身につける。

【地理歴史、公民】

担当【吉田 宣浩】

1 地理歴史科、公民科の目標

教科として生徒の学力向上に全力を尽くす。経営計画では「学習指導の目標として高い進路希望実現に向け、言語能力、知識・技能、思考力・判断力・表現力が身につく教育」が求められている。よって、地歴公民科においても、生徒の希望実現に向けて日々の授業はもちろん、夏季講習やセンター前講習、土曜講習などあらゆる機会を捉えて、生徒の実力向上に努めるものとする。

2 地理歴史科、公民科の

- 1 授業規律に関しては、チャイム着席の励行をはじめ、居眠りや内職などがない規律正しい教育環境を作る。
- 2 指導方法についてはアクティブ・ラーニングの積極的な導入やICT機器の活用など指導に工夫を凝らす。
- 3 新学習指導要領に関しては、早めに検討を始め、令和4年度向けのカリキュラムを策定する。
- 4 大学進学に向け、模擬試験を始め、センター試験や各大学の過去問題について生徒に指導を重ねる。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 授業に関しては、生徒に時間のけじめを教え、私語などない規律ある授業を確立する。
- 2 教員自らが研修に参加したり、他者の授業を見学するなどスキルを高め、実践する。
- 3 上記に加え、3年間を見越したカリキュラムを考えねばならないので他教科と協力し策定する。
- 4 教員自らが予備校の教員研修を受講したり、各種学習会に参加するなどスキルを高める。
- 5 昨年同様に実施する予定である。

4 今年度の取組

- 1 既に昨年度以上にアクティブ・ラーニングに取り組む場面が増え、着実に進展している。
- 2 地歴公民のネットワークを使って、租税教室を開催するなど、主権者教育にも力を入れる。
- 3 既に上記の講習の多くが実施中であり、引き続き生徒の需要に応じていく。

5 期待できる成果

- 1 生徒が時間のけじめをつけ、私語などない規律ある授業が確立する。
- 2 18歳選挙権はもとより、将来の18歳成人時代を見据え、1学年から主権者教育の確立が期待できる。
- 3 各講習を受講することにより、着実な実力の定着が期待できる。

【数学】

担当【荻原 秀明】

1 数学科の目標

現状

「進学指導研究校」の取組、学カスタンダード事業等の実施をふまえ、数学を通して、生徒の学力向上を図る授業を意図的・計画的に推進する。学力に合わせたきめ細かい指導を実現するために、習熟度授業(数学Ⅰ、数学Ⅱ)を展開している。考査や学力テストのデータ分析を授業改善に生かすとともに、アクティブ・ラーニング型授業を行い、「学ぶ楽しさ」、「わかる・できる喜び」を実感できる授業実施している。実力テストに向けた、実践的な指導を行い、進路実現に向けた取り組みを行っている。

課題

3学年の進路希望は、国公立文系・理系進学者の比率が、1/4程度が現状である。選択者の人数増加が課題である。数学の不得意な者の授業の取り組みへの工夫が課題である。

2 数学科の目標

- 1 規律ある授業の確立を目指す。
- 2 わかりやすい授業の遂行を目指す。
- 3 新しい傾向の大学入試問題に対応する。
- 4 大学進学と進学後を見据えた指導をする。
- 5 入試に対応する指導の確立を目指す。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 講義、演習などを通じて、予習や復習の取り組みをはたらきかける。
- 2 習熟度授業の活用と週末課題、外部模試と対策指導を行う。
- 3 次期学習指導要領の研究を行う。
- 4 大学入試に対応できる、組織的な取り組みと研究を行う。
- 5 ICTを積極的な活用し、デジタルコンテンツを用いた授業に工夫を行う。

4 今年度の取組

- 1 基礎学力の定着を目指した学習指導。
- 2 進路実現に向けた土曜講習や個別指導。
- 3 次期学習指導要領と入試対策に向けた取り組み。

5 期待できる成果

- 1 教養としての数学を学び生活の中で豊かな発想の礎に成長させる。
- 2 国公立文系、理系進学者の前年度実績を上回る。
- 3 教科横断型の科目の活用。

【理科】

担当【入山 美樹子】

1 理科の目標

生徒の学力向上を図る授業を推進し、考查結果等を分析、授業改善に努めているが、記述問題の正答率が低いことが分かった。思考力・判断力・表現力に課題がある生徒が多いと考えられる。

計算問題に関しても、苦手意識をもつ生徒が多く、基本的な事項は理解できてはいるが、計算問題や応用問題に対しては不得意な生徒が多いと考えられる。教員からの指示を待って行動したり受動的な姿勢の生徒も多く見受けられ、主体的に行動できる生徒が少ない点が課題である。

2 理科の目標

- 1 ノートのとり方や提出物の締め切りを守らせる指導を行う。
- 2 発問、実験、考察、演習、アクティブ・ラーニング型の授業等を展開し、生徒の思考力・判断力・表現力の評価を行い、観察・実験等を通して探究する学習活動の充実を図る
- 3 東京都教育委員会等が主催する学習会への参加を促し、高い志を持つ理系進学希望者を育成する。
- 4 特に理系大学進学希望者に対し希望進路実現ができる学力を育成する。
- 5 基礎・基本の確実な定着を図る。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 気になる生徒へは適宜声掛けを行う。
- 2 演示実験や生徒実験を活用し、生徒が具体的なイメージをもって学習に取り組めるよう工夫する。また、情報収集・仮説の設定・実験による検証・データ分析等を通して科学的思考力の育成を図る。
- 3 生徒の意識を高める計画的な参加計画を立て、事前準備からポートフォリオ作成までの指導を行う。
- 4 実力テスト等の結果を分析、苦手分野を克服させ応用問題に対応できる学力を育成する。
- 5 定期考査や課題テストで学習状況を確認し、理解不十分な生徒には課題を課して、学

4 今年度の取組

- 1 基礎・基本の反復練習を他教科との自宅学習のバランスを考慮しながら、実施する。
- 2 生徒の主体的な活動、発想を引き出すために、ICTの活用や演示実験を充実させていく。
- 3 生徒自ら自然現象をイメージしながら取り組むことができるように多角的な指導を行う。

5 期待できる成果

- 1 基本的概念・原理・法則の理解。
- 2 科学的探究心の育成。
- 3 自然の事物・現象に対する関心や探究心の向上。

【保健体育】

担当【鈴木 誠士】

1 保健体育科の目標

現状

オリンピック・パラリンピック教育の推進とレガシー継承のため、全ての教育活動の年間授業計画に位置付け、学校全体で組織的・計画的に取り組む。

課題

オリンピック・パラリンピック精神に基づいて、生徒の体育、スポーツに対する関心を高め、目標を持って自ら積極的に活動できる態度を養う。

2 保健体育科の目標

- 1 チャイムと同時に授業を開始する。
- 2 わかりやすい説明と運動量を多くする。
- 3 教科会で次期学習指導要領の理解を図る。
- 4 生涯スポーツに繋がられるような授業展開をする。
- 5 心身共に健全な体力の育成を図る。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 自らチャイム前に活動場所に行き声かけをする。
- 2 生徒が理解して活動しているかを確認する。
- 3 参考資料を早めに準備して共通理解を図る。
- 4 パワーアップハイスクール事業との関連で体力の保持増進を図る。
- 5 健康に生きていくための力を育む学習内容を提供をしていく。

4 今年度の取組

- 1 パワーアップハイスクール事業の継続。
- 2 お互いの授業観察から指導力向上を図る。
- 3 生徒を大切にしたい授業展開をしていく。

5 期待できる成果

- 1 新体力テストの平均値の上昇。
- 2 新しい発想、展開の授業内容の確立。
- 3 生徒からの信頼が厚く学ぶ意欲が向上する。

【芸術】

担当【高野瀬 一】

1 芸術科の目標

現状

芸術の授業に対して生徒は熱心かつ、主体的に関わり学んでいる。真面目な生徒が多く、与えられた課題に対して誠実に取り組み、身に着けた知識や技能を生かして思考、判断、表現をしようと試みる姿勢も備わっている。

課題

一方、自ら問題を設定し、探究していく意欲に乏しい傾向がある。今後、生徒の好奇心を刺激し、芸術に対する知識や理解をより幅広く求めていく態度を形成していくことで、学校で学んだことを社会や生活の中で生かせる人材に育てていく。

2 芸術科の目標

- 1 授業規律の徹底を図る。
- 2 生徒同士が学びあう授業の実践と、ルーブリックを活用した自己評価の活用。
- 3 音楽的な見方、考え方を幅広く社会や生活の中で役立てることができる力を育成する。
- 4 授業を通して思考力、判断力、表現力を磨き、多様な課題に取り組む力をつける。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 年間を通した授業規律の徹底を口頭と掲示により実施。
- 2 活動の記録の残しやすいアンサンブルや鑑賞教材の開発。
- 3 声や言葉といった身近な音を題材にした創作や表現の授業の実施。
- 4 グループワークや発表の機会の設定。
- 5 知識、技能の習得に偏らない実技主体の教育課程の実践。

4 今年度の取組

- 1 授業規律の徹底を口頭と掲示により日常的に実施。
- 2 グループワークや発表の機会の設定。
- 3 声や言葉を活用した創作教材の実施。

5 期待できる成果

- 1 落ち着いた環境で集中して知識、技能の習得に取り組むことができる。
- 2 思考力、判断力、表現力を伸ばすことができる。
- 3 社会や生活の中の音楽に幅広く関わる力を養うことができる。

【外国語（英語）】

担当【渡邊 ひかり】

1 外国語科の目標

生徒の学力向上を図る授業を教科全体で取り組み、年間計画を立てて日々の授業を行っている。「わかる」「できる」と生徒に実感させる内容となるよう、教員間で情報を共有し、授業教材も共通して使用している。教科の特性から、生徒の自学自習なしには、学習内容の定着は難しいため、課題を定期的に与えて自ら学習する習慣をつけさせるようにしている。

基礎基本の定着を目標に指導を行っているが、その必要性を十分に認識できない生徒もいる。その重要性を早期に認識させて、自ら学習し自ら課題を見つけることができる生徒を育てることが課題である。

2 外国語科の目標

- 1 授業にきちんと参加させ、集中して授業を受けさせる。
- 2 科目担当者間の共通認識に基づき、授業内容の統一性を維持する。
- 3 「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能の伸長を目指す。
- 4 大学受験に対応できる基礎力の定着と、応用力を身に付けさせる。
- 5 生徒に生きた英語に触れる機会を作り、異文化に関心を持たせる。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 目標を明示したうえで、アクティブ・ラーニング型の授業を推進する。
- 2 指導計画を立てて共通した授業内容・授業方法とし、考查問題も共通問題とする。
- 3 年一度のGTEC 受験を契機として、ネイティブ・スピーカーを活用して授業内で4技能を育成する活動をする。
- 4 定期的な小テストにより知識定着を図り、スパイラル方式で繰り返し学習させる。
- 5 TOKYO GLOBAL GATEWAY(東京都英語村)の体験活動や、ネイティブ・スピーカーとのチーム・ティーチングを行う。

4 今年度の取組

- 1 基礎・基本の定着のために常に計画を見直し、小テストや課題の質、量を適切なものにする。
- 2 4技能伸長を意識した教材使用と授業内容を工夫する。
- 3 1年生全員にTOKYO GLOBAL GATEWAY(東京都英語村)の体験をさせ、コミュニケーションへの意欲、関心を持たせる。

- 1 基礎・基本を徹底させることで大学入学共通テスト(新テスト)の傾向にも対応できる力を伸ばせる。
- 2 4技能活動を通じて英語の使用場面にバリエーションが増える。
- 3 英語を実際のコミュニケーションツールとして使用させることで、英語学習への意欲を持たせる。

【家庭】

担当【小見川 茂登子】

1 家庭科の目標

現状

限られた教育条件の中で学習指導要領に則った系統的授業を目指している。

課題

「現状」をふまえて、「望ましい職業観や勤労観を育み高い進路目標を実現」「高めあう集団づくりを意識」できる、社会に貢献できる人材に導くためにできることを模索している。

2 家庭科の目標

- 1 チャイムと同時に授業開始。
- 2 授業に能動的に参加し自由な意見の発言ができる雰囲気をつくる。
- 3 青年期における発達課題の内容を網羅させる。
- 4 自分に適した職業から逆引きで大学進学につなげる。
- 5 互いに高めあう集団づくり・共生の意識を高める。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 ICT活用による学習内容の定着を図る、提出物・考査で学習内容の定着を評価する。。
- 2 テーマを設けて少人数のグループで意見をまとめ発表を行う。
- 3 家庭基礎「家族・家庭」の単元で学習者として・職業観の形成・地域社会との関わりについて学習させる。
- 4 東京しごとセンターの紹介。

4 今年度の取組

- 1 夏休みの課題としてホームプロジェクトを実施することで自らの生活課題を考え、改善し、レポートにまとめて発表させ、次年度「総合的な探究の時間」等の探究活動への対応につながるようにする。
- 2 夏休みの課題として次年度の文理選択のスムーズな決定につながるように、職業から大学、大学から学部学科・受験科目、受験科目から文理選択へと逆引きでとらえキャリア教育の活動とする。

5 期待できる成果

- 1 次年度「総合的な探究の時間」等の探究活動への対応。
- 2 次年度の文理選択のスムーズな決定。
- 3 共助の大切さ、他者への思いやりを育てる。

【情報】

担当【安達 里香】

1 情報科の目標

学校経営計画の本校の教育目標を達成するために、「誠実・敬愛・自主・自律」の生活信条のもと、学力や課題解決力、たくましい体力や豊かな人間性、他者と豊かに関わる力を高め、社会の変化に主体的に対応できる人材を育成するとある。情報科では一年を通じて、生徒の豊かな人間性を伸ばしていくとともに問題解決能力を伸ばしたいと考える。スマートフォンの存在が身近になった一方で、家庭内でのパソコンの普及および中学校での指導量が減少し、結果としてタイピングさえままならない生徒が増えている。また、SNSへの無防備な書き込みなど、小中学校時代に指導があったはずのSNS東京ルールを忘れてしまった行動があり、自らの行動に対して思慮が浅い一面がある。

2 情報科の目標

- 1 チャイム着席を徹底し、授業の内容を通して人への礼儀やマナー・規範意識を醸成する。
- 2 CALL教室・ICTタブレットを活用し、アクティブ・ラーニング型授業を展開する。
- 3 次期学習指導要領に関する検討を始め、令和4年度向けのカリキュラムの作成をしていく。
- 4 大学進学と進学後を見据えた指導をする。
- 5 生徒一人一人が情報社会に適応できるように指導をする。

3 目標を達成する上での具体的な方策

- 1 授業規律を徹底する。
- 2 教員はCALL教室・ICTタブレット活用の幅を広げるために日常的に研鑽を深める。
- 3 教科の内容がかなり変わるため、他校・他教科と情報交換しながら作成を進めていく。
- 4 授業内容が将来的に役に立つ内容であることを理解させる。
- 5 情報モラルについて具体例を用いながら、不適切な行動のないよう指導をする。

4 今年度の取組

- 1 CALL教室・ICTタブレットを併用した授業展開を行う。
- 2 情報モラルをベースに授業を展開し、問題解決能力を伸ばすための企画とプレゼンテーションを実施する。
- 3 次期学習指導要領に対応した学習内容の検討を実施する。

5 期待できる成果

- 1 環境に左右されない情報活用能力を身につけることができる。
- 2 正しい情報モラルを理解するとともに、問題解決能力を身につけることができる。
- 3 次期学習指導要領導入後の指導内容について綿密に検討することができる。